

# 介護老人保健施設しおん

症 例 概 要    ご利用者   70歳代   女性    （要支援2）

利用期間   ：訪問リハビリ2025年5月～現在

現病：右大腿骨顆部骨折、腰椎圧迫骨折、右眼窩骨折  
右膝内側側副靱帯損傷

既往：右変形性膝関節症、高血圧症、脂質異常症

経過：2025年1月、夫と共に自宅の納屋を解体中に梁が落下し本氏の顔面、右大腿を直撃し、その弾みで転倒し現病の通りとなる。搬送された地元病院での右眼窩骨折の治療が困難な為、同年同月に仙台の病院へ搬送、入院加療の運びに至る。回復期リハビリテーションを経て同年5月中旬に退院、自宅復帰される。同年同月下旬よりしおん訪問リハビリの利用開始となる。

## 内 容

氏は現在、石巻市のご自宅にご夫婦でお暮らします。ご本人は73歳まで会社努めをされながら家業である農業を手伝われ、会社を退職後はご夫婦お二人で農業を営まれていらっしゃいます。2025年1月にご夫婦とご友人達で古くなった納屋の解体作業中に現病を受傷されました。その時の記憶は鮮明で「顔半分が無くなったかと思うほど痛かった」と語られていらっしゃいます。入院中は免荷時の松葉杖の訓練中にアクシデントがあり、その後恐怖感が先行し松葉杖への抵抗感を示されたために全荷重可能になるのを待ち、歩行器による歩行から段階的に独歩訓練に移行したとのこと。従いまして入院中の移動手段は車椅子を使用していたため、その間に体力、取り分け下肢筋力が低下したとのことでした。同年4月中旬より病院内はT字杖による移動が可能、訓練レベルでは独歩200m程度の歩行が可能となりました。しかし元々の右変形性膝関節症の影響による運動時痛や2kg程度の荷物を持ちながらの歩行では腰痛がありました。同年5月中旬に退院、その後は無理のない範囲での家事炊事を行いながらお暮しになられていらっしゃいました。同年同月下旬よりしおんの訪問リハビリを開始となりますが、実態調査の段階では右膝関節には金属支柱付膝装具を着用しT字杖使用での歩行をされていらっしゃいました。「私にできることなんてあるのかしら」という希望の持てない精神状態でいらっしゃいました。ご本人の主要なHoopは「痛みなく歩けるようになりたい」「庭作業や畑でのご主人の作業が手伝えるようになりたい」の二つ。入院以前にされてきた庭や畑作業の内容を細かく伺いながらどのようなことをしたいか、できるかをご本人との一緒に考えながらリハビリに取り組んでまいりました。まずは右膝関節の可動域制限の改善や疼痛の軽減、腰部への負担軽減のための下肢筋力訓練を中心にリハビリに取り組み、歩行時の歩容改善を進めていきました。身体機能は順調に向上され、庭の草むしりや畑作業の補助が可能となりました。その後ご本人より「畑まで行く為に自転車に乗れるようになりたい」というご要望

ができました。サドル調整や跨ぎ動作、乗り出しの加速練習の指導を経て運転が可能になりました。その後自家用のトラックの運転ができるともっと楽に作業ができるということから、乗降車の動作の練習を重ねて畑までの運転をされるようになりました。氏は深刻な受傷から身体機能の回復と向上を経て目標をひとつひとつ達成をされたことから更に要望が生まれ、それを達成されていくお姿からかつての気持ちの影は失せ、強く輝いていらっしゃると思います。氏との出会いは一人のセラピストとして類い稀なる機会と幸運に恵まれたと思います。ここに氏への謝意を添えまして皆様にご紹介させていただきたく、キラキラ介護賞への推薦をさせていただきます。